

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100861		
法人名	有限会社 ラ・ヴィ		
事業所名	グループホーム ソレイユ 2階		
所在地	札幌市中央区南7条西11丁目1番1号		
自己評価作成日	平成31年3月5日	評価結果市町村受理日	平成31年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、レクリエーションに力を入れております。日常生活動作(ADL)を兼ねまして、利用者様にどのように行えば喜んで頂けるかを常に考え、土日以外は毎日計画を立て、その日のレクリエーション責任者を中心に相談、練り合い、実施しております。また、毎月季節ごとに(新年会、節分、ひな祭り他)利用者様に喜んで頂ける様に各フロアでリーダーを中心にスタッフ全員で取り組み、務めております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0170100861-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ソレイユ」は、地下鉄東西線西11丁目駅から徒歩で10分程の札幌市中心部に立地している、利便性が高いグループホームである。「家族になろう」という理念の下に、代表者を中心に全職員で利用者一人ひとりの生活リズムや生活習慣を大切にして、その人らしい生活が送れるように温かな支援を行っている。毎日開催している健康体操や百人一首、アロマレクなど多彩なレクリエーションに参加して、近隣住民や併設の介護付き有料老人ホームの方々と交流する機会もある。代表者は、法人研修や母体法人の医師による講話を開催して職員の資質向上に向けて前向きに取り組むと共に、新たに「業務提案制度」を発足させて各職員の意見や提案に真摯に向き合い運営やケアに反映させている。また、環境・身体拘束・感染症・事故委員会を通して、職員も役割を持ちながら運営に携われるような仕組み作りを始めている。利用開始時の面談で詳細に情報を収集し、利用者の思いや家族から得た意見、要望をその都度具体的な言葉でケアプラン(1)に記入して、現状に即した適切な介護計画を作成している。設備面では、介護度が重くなってもゆっくり湯船に浸かって入浴できるように特殊浴槽を整備するなど、利用者の状況に応じて環境整備を行いながら全職員で個々に応じた細やかなケアに熱心に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族になろうを理念にホーム長と職員はその理念を共有している。地域の中で自立、ゆとり、受入れの実践をしております。	理念に「家族になろう」という文言を据え、一人ひとりの利用者の生活歴や尊厳を大切に、家族に接するような温かなケアを行い、その人らしい生活を支えている。毎朝申し送りや唱和し、全職員で理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日のレクリエーションを通じて、近所の人たちとのコミュニケーションをとっております。	事業所の敬老会やハロウィンパーティーに訪れた保育園児に、利用者がお菓子などをプレゼントしている。地域のお祭りに出かけたり、散歩時に近隣の方々と挨拶を交わして会話を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設はホームページにて情報を発信し、相談などは窓口、ホームページ上から受け付けており、地域貢献に活かされております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、施設の代表、家族、町内会長らが出席し、開催。報告、意見をサービスに反映させております。	会議案内を全家族に送付して、活動報告や受診状況などを報告したり、避難訓練後に参加者と意見交換している。家族の参加者は固定化しつつあるが、電話や来訪時に参加を呼びかけたり、意見を聞き取り会議に反映させている。議事録は全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を実施し、情報提供に努めております。	日頃から統括課長が行政と連携を深め、介護保険制度や介護サービス内容などについて市役所を訪問して確認している。保護課の担当者が来訪した時は、利用者の状況を伝えて相談することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回身体拘束会議を開催し、身体拘束の見直し、利用者様を第一に考え、ケアの取り組みに努めております。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備し、毎月身体拘束廃止委員会を開催して拘束の見直しや対応について検討している。内部研修でも具体的な禁止行為11項目を確認している。家族の同意の下に、安全面に配慮してベッド柵やセンサーマットを使用している事例もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設での研修会で職員は虐待について学び、理解をして虐待防止に努めております。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学び、理解して活用できるように努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・退去時には十分な説明を行い、疑問点に答え、納得していただいております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入口に意見を聞くための箱が設置されており、それらを基に運営に反映するように努めております。	家族の面会時や電話で近況を伝えて意見や要望を聞き取り、些細なことも「面会時及び電話時の報告」用紙に記録している。毎月の個別便りで、利用者の健康状態や日頃の様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内で行われる会議等で常に意見を聞き、反映させております。	代表者は、新たに「業務提案制度」を発足させて、各職員の意見や提案を書面で聞き取り、運営やケアに反映できるように工夫している。また、職員は各種委員会などを通して運営に携わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力、勤務状況の把握、有給及び労働時間が超えた場合には残業代の支給があります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受ける機会に恵まれ、職員は徐々にレベルアップしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は施設外の研修会などに参加して、ケアの質の向上に取り組んでおります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報を基に本人との会話を多く持ちながら、寄り添うことで気兼ねなく本音を話せるような雰囲気を作っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様を通し、家族が気兼ねなく話せるようにゆったりとした対応でしっかり話を聴かせて頂く心構えを持っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の人格を尊重し、常に利用者様の立場に立ったサービスの提供を基に御家族様と一緒にひとつひとつ相談し流動的に対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のことを一番に考え、フロア、スタッフでユニット会議にて問題点を挙げ、実行しております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ささいなことでも、ご家族様に相談することを忘れずに、御家族様と一緒に検討するように心掛けております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、本人の希望が叶うように方法を検討しております。	近所に住んでいた方が訪ねて来て、居室で話をしている利用者もいる。親族から電話や手紙が届くこともあり、職員は手紙の投函などを支援している。家族と墓参りや外食、買い物などに出かけたり、お正月やお盆に自宅に帰ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間関係が穏やかである為にトラブルを未然に防ぐように見守りに努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の状況や退去後も相談し合い、入居者様、御家族様に納得して頂ける様心掛け、退去後も相談して頂ける様に関係を築くように努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の好むこと、喜ぶことを見つける為にコミュニケーションをとる時間を大切にしております。	会話や表情、仕草などから本人の思いや意向を把握している。基本情報用紙に趣味や宗教、好きな食べ物などの情報を記載して、変化があれば追記している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からは勿論、御家族様からも積極的に情報を知る為にコミュニケーションを図っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日偏りなく全員の様子を知る為、コミュニケーションをとる時間を大切にしております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、御家族様との会話を大切に、小さな情報を逃さない。スタッフ間での情報交換を強化しております。	来訪時や電話で聞き取った家族の意向、利用者の発した言葉をケアプラン(1)に具体的に記入している。ミニ会議で職員の意見を集約し、3か月ごとに介護計画を見直している。現在、介護計画に沿った日々の記録にも取り組み始めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を漏れなく共有する為に、申し送りノートやケース記録を再確認しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対応方法を全スタッフで話し合い、実践、評価を繰り返しながら適切な対応を探究しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	段ボール回収を肇、散歩の際には近隣の方とのあいさつから交流を深めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、御家族様の希望を優先しております。	母体法人の医師による訪問診療を、各利用者週1回受診している。外部へ受診する時は、医師間で情報交換して適切な医療支援につなげている。受診状況は個別に記録し、全職員で健康状態を把握している。	

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師と連携をとり、相談し、報告して適切な指示を受けて対応しております。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職場内の看護師や入院先の医療機関に情報提供し、安心して治療し、早期に退院できるように協力しています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医師の判断に基づき、当事業所と入居者様、御家族様と話し合いを持ち、方針について支援出来るように取り組んでおります。	利用開始時に、事業所として可能な対応や方針を説明している。体調変化に応じて主治医の判断の下に家族と事業所も一緒に話し合い、よりよい方法を検討して可能な限り対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルがあり、研修会やミーティングなど日頃から実践力を身に付けています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては、毎年防火訓練や避難訓練を行っている。業者の方を招いて説明を受け、身に付けています。	年2回、消防署と防災協会の協力の下、昼夜の火災を想定した避難訓練を実施している。地震時のケア別の対応について話し合った内容を整理し、マニュアルに綴りたいと考えている。最近、避難訓練に地域住民の参加は得られていない。	地域住民に避難訓練への参加を依頼すると共に、地域との協力体制について運営推進会議などで話し合うよう期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重してプライバシーに配慮した声掛けや対応をしています。	職員は、行動を抑制する言葉を使わないように指導を受けている。認知症コミュニケーション技法の研修も受講しており、失礼のない声かけや態度で接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から寄り添ったケアの中から気兼ねなく思いや希望を表現できるような温かく、ゆったりとした姿勢で見守っております。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に寄り添う事で本人のペースに合わせ、危険以外否定せず希望に沿って支援しております。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に起床時は身だしなみに気をつけている。おしゃれのアドバイスや会話の中からも取り入れております。			

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みや意見を聞きながらメニューの作成を行っております。	管理栄養士の作る献立を職員が調理して提供している。外食や出前も利用し、利用者の食べたいものを聞き取り献立に盛り込んでいる。行事や誕生日はケーキや特別食でお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を毎日記入、利用者様一人ひとりの状態に応じて確保の声掛け、また管理栄養士の指導による献立作りをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝前に利用者様一人ひとりの口腔内に応じてケアをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握、寄り添い、見守り、声掛けにて誘導を行っております。	温度版に日々の排泄記録を記入している。時間の経過を見ながらソワソワした様子が見られたり、場所を間違えをしそうな時は、察知して迅速なトイレ誘導に導いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫(牛乳や水分の摂取)や体操や廊下歩行、またトイレ時お腹の(の字)マッサージなどに取り組んでおります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様が不穏を感じさせることなく、その人その人に合わせ楽しく入浴して頂ける様に配慮しています。	座位が保てなくなったり介護度が重くなっても、事業所の特殊浴槽で湯船に浸かって入浴している。毎日、午前中に1～4名が交代で職員と会話を楽しみながら気持ちよく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの生活習慣を把握して、状況に応じて安心して休息したり、良く眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様全員の薬の管理を行い、薬の目的や用法容量についてはリストを作り、理解しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しい雰囲気作りから始め、歌をうたって手を動かしたり、歩行、気分転換にて紙芝居を行っております。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の連絡・希望により、家族同伴にて外出実施しています。	温暖な季節は、散歩以外にも外食や外出の機会もある。事業所1階のレクリエーション・機能訓練室で介護付き有料老人ホームと合同のレクリエーションを楽しんでいる。家族と一緒に正月やお盆に自宅に帰ったり、買い物や外食に出かけるなど、利用者の楽しみになっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫にて管理し、状況に応じてその都度必要な金額を出しております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に一度、ソレイユ通信を発送し、近況報告をしている。電話の希望があるときは、出来る限りの支援を行っています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は毎日掃除を行い、清潔を保っている。強い日差しがあるときにはカーテンなどで日陰を作る等の配慮を行っている。居心地が良い空間作りを行っている。入居者様中心と常に考えています。	5階建ての2階、3階、4階を事業所として利用し、1階には法人の内科が入っているため医療面でも安心感がある。各フロアは綺麗に清掃が行き届き、トイレや浴室も暖かくなっている。居間にあるソファや食卓テーブルの椅子に腰かけて、職員と会話をしたりゲームをして自由に過ごしている。温湿度も適切に管理している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルの配置は入居者様同士の相性、または個性豊かな配慮をしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は安全を確保しつつ、本人の希望される配置にしています。	利用開始前より使っていた小物や好きな洋服、仏壇やテレビを持ち込んでいる。家族の写真、自分の手作りのパッチワークの作品を飾り、どの部屋も自分らしく暮らせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事や出来る可能性があることを維持、向上出来るよう努めています。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100861		
法人名	有限会社 ラ・ヴィ		
事業所名	グループホーム ソレイユ 3階		
所在地	札幌市中央区南7条西11丁目1番1号		
自己評価作成日	平成31年3月5日	評価結果市町村受理日	平成31年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、レクリエーションに力を入れております。毎月必ず行われているレクリエーション(お食事会、季節を感じて頂ける四季折々のレクリエーション)の他に外部の方の協力により、音楽療法等。また、それとは別に週に6回のペースで、全入居者様を対象にリハビリテーションを交えたレクリエーション(口腔内体操、健康体操、近隣公園での運動)などを実施しております。残存機能の保持・向上を全館挙げての目標として掲げ、日々業務にあたっております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022_kani=true&JigyosyoCd=0170100861-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①当ホームでは、理念の柱として「家族」という言葉を入れている。「家族」こそが生活の基本と考えて地域生活での中核であり、最小単位として捉えているからである。 ②当ホームへの地域の理解と、友好的な関係、その関係の持続性、地域からの協力・支援を理念の2本目の柱とした。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩・買い物を通して近所の人たちとコミュニケーションをとっている。近所の喫茶店にも月2回コーヒーとケーキを楽しみに通っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設のホームページにて情報を発信、相談などは窓口・ホームページ上からも受け付けており、地域貢献に活かされている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、施設の管理者・家族・町内会長たちが出席し、開催。意見をサービスに反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を実施し、情報提供に努めている。運営上疑問点がある時は市町村の担当の人にアドバイスを頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回は身体拘束会議を開催して、身体拘束について見直し・拘束しないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内・外での研修会で職員は虐待について学び、理解をして虐待防止に努めている。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	①研修などで学び、理解して活用できるように努めている。 ②実際に、成年後見制度も活用されている利用者様もいらっしゃる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	①契約・解約・改定等の際には相談担当者が口頭・書面で説明している。 ②チェックシートを作り、説明漏れがないようにしている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①運営推進会議の活用 ②家族が話された事・希望されている事を面会報告票に毎日記入して管理者、職員が把握できるようにしている。又、それに対して返答もしている。 ③課題発生時には職員全員で具体策を話し合い家族と担当者会議で話し合う。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「朝ミーティング」や「管理者と職員の個人面談」、「業務提案制度」を設け、常に意見や提案を聞き、有効だと認められるものは取り入れている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①昇格、昇給、手当等の支給 ②キャリアパス ③勿論、降格、減給もある ④休憩室の設置			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①毎月の内部研修 ②外部研修を受講した職員はその後、内部の研修で内容を報告している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①施設外の講演会への出席 ②外部から講師を招いての研修を行っている。 ③中央区のスタッフ研修会へ参加し課題発表も行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず入居前に面談をし、本人との会話を多く持ちながら、気兼ねなく本音話せるような雰囲気を作っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず入居前に数回面談をして家族が気兼ねなく本音話せるように、ゆったりとした対応で親身に話を聴く雰囲気を作っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームの場合、病院のMSWからの紹介が主である。初期段階で、まずMSW・ケアマネ・看護師を交えながらの会議で、必要とされる支援がかなり絞り込まれる。そこでフォーマルなサービス、インフォーマルなサービスを提案しながら進めていく。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	①スタッフが何でもやってしまう事が無いように、本人のできる事を見つけてお願いしている。 ②今までの生活歴を重視。 ③本人と同じ目線で接していく。 ④昔の話を聞いて職員が感動する場面が生活の中で沢山ある。特に感受性の豊かな職員にとっては、学ぶチャンスにもなっている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①何でも家族に相談するを忘れない。 ②契約時に「本人」と「家族」と「職員」が力を合わせて、初めて介護が成り立つという事を必ず説明している。 ③但し、一部の家族は「入居させっ放し」という家族があるのも事実。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、親戚、元恋人、元妻等の訪問、手紙のやりとりを手伝っている。本人から出向くこともある。(勿論、本人の意思で)			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①利用者同士がコミュニケーションをとれる行事やレクリエーションを考案。 ②リビングではソファやイスのレイアウトを配慮する。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	①退居後、他の病院に入院後も面会に行っている。 ②退居後、家族の経営しているお店を利用している。 ③家族が所属しているサークル主催のコンサートへの出席。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①一人一人の言動、行動、表情に注意を向けサインを見逃さないように ②本人の好むこと、喜ぶことを見つけるための時間を大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①入居契約前に独自の基本情報シートを用いて把握に努めている。 ②入居後も折りに触れこれまでの暮らし方を聞かせて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①一日の過ごし方 →ケース記録、タイムテーブル ②心身状態 →温度板、処置板、IN・OUT表 ③有する力等の現状 →リハビリ表		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	①入居前より医療関係者やケアマネから情報収集 →②暫定ケアプラン作成 →③生い立ちから現在までの生きざまをリサーチ →④本人・家族・医師・看護師と話し合い →⑤ケアプラン作成		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①日々は個人記録 →②1回/1月 フロアー会議で各入居者毎に記録 →③1回/3ヵ月 モニタリング →④計画作成		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族関係、友人関係等、本人をとりまく人間模様や環境、背景、そしてそれらの変化に対しても対応する様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①避難訓練-消防署に協力 ②生活保護受給者-民生委員の協力 ③趣味・レク-文化教育機関、ボランティアの協力を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームではインシュリン、ストマ、バルーンカテーテル、胃ろう等医療的ニーズの高い方が多く入居されている為、併設の診療所の医師、看護師と連携している他、更に地域の病院、他科の後方支援も受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師と連携を取り、相談し、報告をして、適切な指示を受けて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	①入院時には当ホームの看護師、入院先の病棟看護師と病状のやり取りを行う。(入院中必要な度) ②①の報告を管理者は都度受け、入院先のMSWと退院日調整を行う。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	①かかりつけ医・看・介スタッフと本人、家族とで方針を話し合う。 ②①の方針で医・看・介護計画を立てる。 ③他の大きな病院と連携。 ④繰り返しスタッフ・家族で話し合う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルがあり、研修会やミーティングなど日頃から実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては、毎年防災訓練や避難訓練を行っている。消防署の方を招いて説明を受け、身に付けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①名前の呼び方に気を付けている。「〇〇さん」 ②過去の職業や身内関係に触れて欲しくない利用者には踏み込まない。 ③個人情報にはキャビネットに鍵をかけて保管 ④スタッフは入社時に秘密保持の誓約書を提出している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①筆談、ジェスチャー、絵文字などを用いる。 ②本人の意思で選べるようにする(例:セーターを着る時、何枚か選べるようにする)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースに合わせ、押し付ける事なくできるだけ希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	①日常的には「清潔感」を大切にしている。 ②外出時、受診時には服装に気を配る。 ③女性の場合は、ファッションやメイクの話題で花が咲いている。 ④鏡を沢山設置し本人が自ら容姿を確認できるようにしている。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みや意見を聞きながら、メニューを作成したり、一緒に調理や片付け・準備などを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①食事は主食・副食の摂取量を記録 ②栄養バランスは管理栄養士のアドバイスを受け献立表で管理 ③水分量はIN・OUT表で摂取量と排泄量をチェック		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①毎食後や就寝前に利用者様一人ひとりの口腔内の状態に応じてケアをしている。 ②訪問歯科の受診支援		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握して、見守りをしたり、声かけをしたり誘導を行うなどしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①飲食物の工夫(牛乳やヨーグルトの摂取)や体操・散歩などを取組んでいる。 ②IN・OUT表をつけ看護師へ報告 ③看護師が浣腸、摘便の処置も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	①できるだけ利用者様の希望や時間帯を合わせて、楽しくゆったりと入浴していただけるよう配慮している。 ②入浴剤で気分を盛り上げる。 ③寝たきり、拘縮の強い人、立位保持の厳しい人は特浴室を利用して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	①昼夜逆転しない程度に居室やソファに横になって頂いている。 ②夜間は音を静かにしたり調光ライトを用い、安眠できるムード作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①利用者様全員の薬の管理を行い、薬の目的や用法・用量についてはリストを作り理解している。 ②本人が確実に服用するまで見届ける。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	①利用者様の得意としていることを活かして、役割を決めて、お手伝いして頂いている。 ②「自分が必要とされている」と思ってもらえるように支援している。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出が出来るように計画的に予定を立てている。また、事前に連絡をいただき、医師に確認の上(体調など)外出は可能。家族と連絡を密に取り合い支援している。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①金庫にて管理し、状況に応じてその都度必要な金額を本人に渡している。(家族との相談により) ②必ず記録に記載している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	①電話の必要がある時は、出来る限りの支援を行っている。 ②手紙は1FにメールBOXを設置している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①共有空間は、毎日掃除を行い清潔を保っている。 ②強い日差しがある時には、カーテンなどで日陰を作る等の配慮を行っている。 ③花や観葉植物を飾る。 ④入居者の作品を飾る。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①食卓テーブルの配置は入居者様同士の相性などを配慮している。 ②片隅に一人になれたり、気の合う人とお喋りできる空間を作っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好み、なじみの物でレイアウトできる様になっている。ぬいぐるみや人形を連れて来ている人は全入居者で可愛がっている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①廊下幅は広く車椅子移動も安全 ②トイレ、浴室、廊下の手すり配置 ③ナースコールの設置(各居室、トイレ、浴室内)など安全性重視で自立生活を送れるように工夫されている。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100861		
法人名	有限会社 ラ・ヴィ		
事業所名	グループホーム ソレイユ 4階		
所在地	札幌市中央区南7条西11丁目1番1号		
自己評価作成日	平成31年3月5日	評価結果市町村受理日	平成31年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の意思を尊重し、心身共に安らぎのある生活を営んで頂ける様、支援していきます。日常のリハビリの中で可動域に制限のある方が良い方向へと変化が表れた時の喜びと、生きる糧になられた時の感動を共感致しております。環境整備に工夫を行い、安全とその方らしい生活を送って頂ける様、支援をしていきます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0170100861-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族」というテーマで理念を掲げ、利用者様との絆を大切に思いながら、実践・共有しております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の催し、お祭りに参加して頂き、利用者様との交流を図ってもらったり、公園への散歩の際、挨拶を交わしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、認知症の方の理解を深め、活動報告を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、活動報告の他、現状の実態、取り組みについての評価、意見を頂き、サービス向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者と運営上で疑問点や相談事が発生した場合、助言や情報を提供して頂き、サービス向上に繋がっています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	立地環境の問題もあり、安全を重視した施錠設置をしており、身体拘束委員会を毎月開催しております。委員会を通して職員への意識向上に努めております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や年間研修会において、高齢者虐待防止に向けての勉強会を開催しております。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を通じ、成年後見人制度の勉強会を開催し、実施に成年後見人制度を活用しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様や御家族様へ契約時に十分な説明をし、理解、納得を得た上で同意を頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通じ、御家族様の意見、要望を頂いております。その他、苦情BOXを設置し対応しております。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を実施し、意見・提案を聞く機会を設け、反映させております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の把握、就業規則の再確認等、働きやすく向上心が持続できる様、職員との話し合いの場を設けております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加や研修後の報告を行い、日々の支援のあり方等についてコミュニケーションを図りつつ話し合っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市中央区内の同業者と交流を図り、勉強会を通じ、サービスの向上に努めさせて頂く取り組みを行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の関わり合いの中で利用者様の要望や不安を聞き、対応しております。訴えを伝えることの難しい方はメッセージを見逃さない様コミュニケーションを図っております。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様、御家族様との利用開始前の面会を通じ、不安や要望を伺い、安心してサービスを利用して頂ける様、関係作りに努めております。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、御家族様の意向を伺い、一緒にニーズを含め、課題分析を行うことで、サービス利用に理解を深めて頂き、安心して頂ける様努めております。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方らしい生き方、個性を尊重し、共感を元に理解を深めることで、支え合う関係性を築ける様、対応に努めております。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ソレイユ通信を月に1回発送し、日常生活の様子や身体状況をお知らせしております。御家族様が来訪された際は近況を直接お知らせしております。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の生活環境、歴史の中で昔話に触れることで、知人様来訪時、鮮明に思い出が蘇り、喜ばれるような支援に努めていきます。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等の交流を図ることで、馴染みの関係が次第に増え、コミュニケーションの場として活躍しております。機能的に行うことが難しい方でも職員の介入により、参加することで他利用者様との交流を図れる様、支援しております。			

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用サービス終了後も関係性を大切にし、相談や支援に応じていきたいと考えております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向、希望に寄り添い、その方を理解していく中で、見出し、支援させていただく様努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に情報収集を取らせていただき、生活歴を踏まえた上で、より良い質のサービス提供に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で職員との連携を図り、利用者様の身体面、精神面に関する状況に気付き、共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、御家族様とのサービス提供についての意見、要望を踏まえた上で介護職員、看護師、ケアマネージャーとの現状に即した介護計画を作成しております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フロアでの申し送りノート、個別ケース記録を記入し、ケアプランに添った介護計画を元に情報共有、見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、御家族様の要望に応じた柔軟な対応を心掛け、通院同行、必要物品購入に応じております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間行事の一環としてボランティアによる催しで交流を行っております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関により、日常的に健康管理を行っております。また、週一回訪問歯科による診療も行っております。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護、看護の連携を図り、日常的に心身機能の報告、異常がある場合は医療受診の体制を整えております。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療機関との情報交換を行い、今後の医療面に関する相談、助言を病院関係者との間で交わしております。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化やターミナルについての話し合いの場を事業所より御家族様へと医師等を含め説明、支援方針の相談を行っております。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常の身体状況に関する観察に加え、特変に備えての対応等は研修及びマニュアルに添って的確な判断の下、行えるよう訓練を行っております。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を消防署立会いの下行い、職員の意識向上を図っております。			

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対する言葉遣いや接遇に日頃から注意を払うことを心掛けております。また個人情報保護法により取り扱いにも十分気をつけております。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で寄り添いの支援を心掛け、ご本人様の希望や思いを伝えることが出来るよう働きかけております。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内のスケジュールはあるものの、その方らしい暮らしを尊重し、居心地の良い環境へと支援、見守り等を行っております。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容と共にある方はお化粧、ある方はマフラーを身につけ、おしゃれを楽しめるような支援を行っております。			

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	生活支援の中で利用者様と共に食事準備や後片付けを行っております。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による管理指導の下、メニューに沿っての調理、食事摂取表を用いての食事量・水分量をチェックしております。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しております。夜間は義歯を預かり、洗浄剤にて衛生を保っております。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄ペースを掴むことにより、失禁回数を減らすことが出来、自立支援の繋がりが出来ております。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量・水分量の摂取状態を把握、チェックを行い、便秘症の方には排便コントロールを行っております。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんで頂ける様、職員と一緒に歌をうたい、入浴剤等の投入により心身ともにリラックスして頂いております。入浴時間、曜日は事前に本人確認を行っております。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせた休息時間を設け、体を動かす等の生活習慣を支援することで夜間の良眠へと繋げております。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにより、服薬用途が確認できるようになっております。服薬時のダブルチェックを行い、誤薬防止に努めております。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握することにより、その方らしい生活習慣を見出すことが出来、得意分野を活かし、楽しみの提供に繋がっております。			

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外の散歩は天気の良い日に出掛けております。その他、コンサート・食事会等のレクは年間行事に含まれており、外出支援を行っております。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は金庫にて保管し、必要時、買物代行支援を行っております。本人管理可能な方は所持して頂いております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙等の連絡は希望時に支援を行っております。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部の環境設備として、温度・湿度の調整と危険の無いよう動線確保をしております。また、生活空間のフロア内の四季彩りの飾りつけを行っております。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内、食席・自席以外に共用ソファを設置、憩いの場として馴染みの関係を築いており、静かに過ごせる空間でもあります。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談の上、ご本人様に慣れ親しんだ家具や装飾を配置、シンプルで衛生面に配慮した居室となっております。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援に基づき、「出来る事」をサポートしております。フロア内は回廊式で手すりを利用して歩行訓練のできる環境にあります。また、居室出入口には個人の写真を掲げ、各場所が分かりやすい様目印等の工夫をしております。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム ソレイユ

作成日：平成 31年 3月 25日

市町村受理日：平成 31年 4月 5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策について避難訓練を年2回実施しているが、地域の方の参加には到っていない。	避難訓練の際、地域の方々への事前の参加呼びかけ・協力をお願いする。	避難訓練の日程が決定次第、事前に地域の方々への呼びかけを書面にて行う。	2年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。